

経営比較分析表（平成30年度決算）

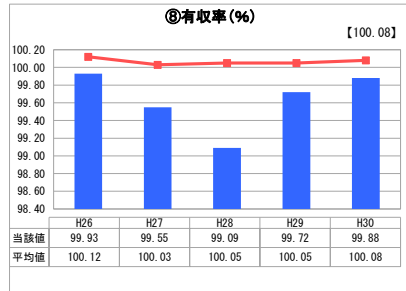
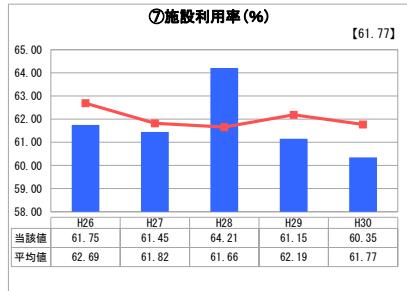
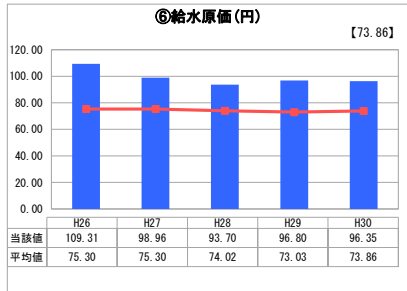
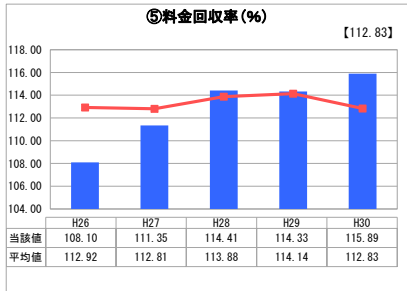
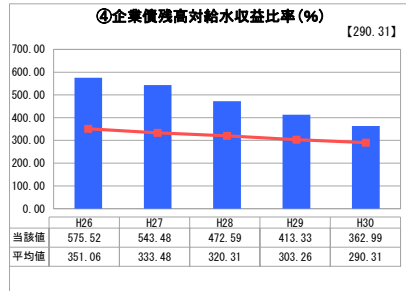
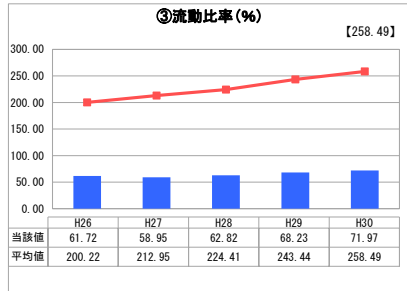
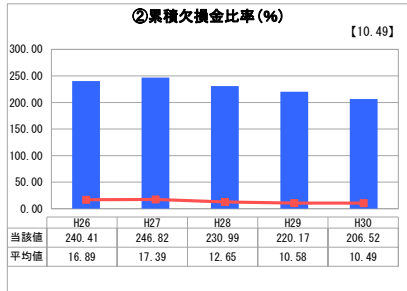
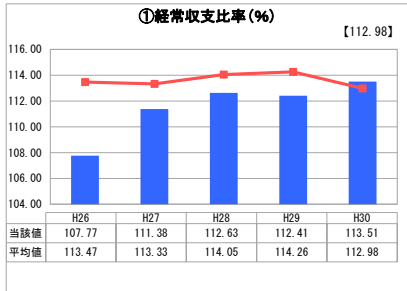
北海道 十勝中部広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	80.29	93.32	0	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
251,449	721.64	348.44

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

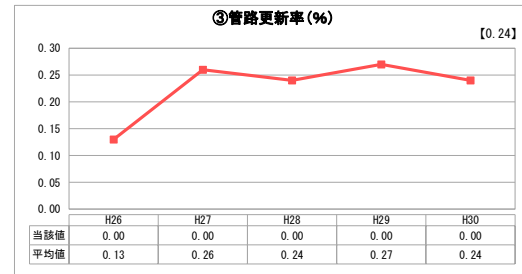
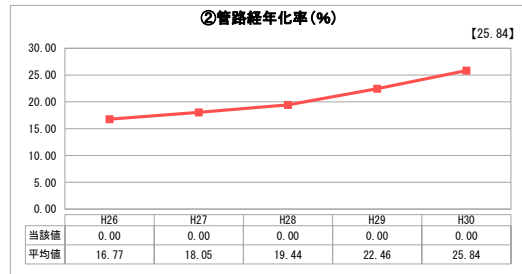
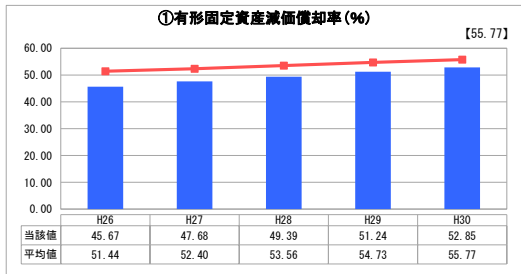
1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
100%以上で推移している。
- ②累積欠損金比率
用水供給開始したH7年度からH18年度までは毎年純損失を計上し、累積欠損金が5,442,027千円に達したものの、H19年度以降毎年純利益を計上し、H30年度末時点で3,043,906千円まで減少し、累積欠損金の解消は進んでいるところである。
- ③流動比率
100%未満で推移しているが、これは会計基準改正で1年以内に返済する企業債が流動負債に移行したためである。
- ④企業債残高対給水収益比率
供給料金を増やす設定としており、類似団体よりは高めとなっている。企業債残高は減少傾向にあるため、当該比率も減少して見込み。
- ⑤料金回収率
100%以上で推移している。
- ⑥給水原価
類似団体よりは高い水準で推移しているが、料金設定に当たり構成団体と協議しており妥当であると考えられる。
- ⑦施設利用率
類似団体と同程度である。企業団設立当初の見込みと比較し、水需要が低迷しており、構成団体の今後の予定申込水量も減少傾向であり、今後も必要の低迷が見込まれる。
- ⑧有収率
99%前後で推移している。今後も同程度の水準を維持していく。

2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値と同じくらいで推移しているが、用水供給事業開始から20年以上が経過しているため、耐用年数が経過する資産も現れてきている。
- 管路は、現段階では耐用年数に達していない。

2. 老朽化の状況



全体総括

指標全体としては、概ね健全な経営であると考えられる。令和2年度以降は、用水供給料金の基礎となる料金単価の算定に現金支出を伴わない減価償却費などを含まないため、収益的収支で未処理欠損金が増加する状況となる。また、資本的収支においても資本的収支不足額が生じているが、損益勘定留保資金を有しているため不足額を補てんすることができ、経営全体においては、必要な資金(現金)は確保される見通しである。

将来にわたり安全で安心な水道用水を安定的に供給するという使命を達成するため、長期的な視点に立った計画的な施設整備や維持管理をすすめるが、減少する水需要に応じた施設規模の適正化、業務の効率化によるコスト削減に取り組むとともに、収支実績を踏まえ、適切な時期に料金単価の検討をすすめる、持続可能な事業経営に努める。